

岡山大学文学部プロジェクト研究報告集  
「文化の交流、文化の翻訳」

はしがき

世を挙げてグローバル人材の育成が声高に叫ばれている。日本を飛び出し、世界各地でビジネスができる人材が求められているようである。相手方との交渉には、語学力はもちろん、その国の歴史・宗教・社会習慣など、要するに文化の理解が必要とされよう。

経済活動のグローバル化と並行して、あるいはそれより以前に、思想や文学の「グローバル化」が進行している。今から 200 年近く前、すでにゲーテは世界文学の概念を提唱し、今日、たとえば村上春樹の作品は英語をはじめ諸外国語に翻訳されて世界文学と化している。

日本は幕末・明治維新以降、西洋文明を吸収し、近代化に努めてきた。今日では、ハルキの作品やスタジオ・ジブリのアニメなど、日本の文化が世界に発信されている。

文化の受容も、文化の発信も、翻訳が深く関わっている。岡山大学文学部では、2008（平成 20）年度より、文学部プロジェクト研究の「三大プロジェクト」のひとつとして「文化の交流、文化の翻訳」の問題に取り組んできた。哲学、歴史学、文学を専門とする教員が集まり、学部横断的に研究を行った。本書はそのメンバーの成果の一部である。「文化の交流、文化の翻訳」という統一テーマの下、各論考はバラエティに富んでいる。このテーマが蔵している多様性を感じ取っていただきたい。

当初は冊子として刊行する予定であったが、諸般の事情により、当面は電子公開ということになった。版下作成は印刷所を通さず、ワープロ原稿を PDF にしただけである。ワードでルビを振ると行間が空くなど、見栄えがよろしくないページもあることをお断りしておく。ご容赦願う次第である。

2014 年 3 月 31 日

（文責）編集者・萩原直幸

追記

本プロジェクト研究の一環として 2013 年 3 月 9 日（土）に開催された講演とシンポジウム「文学と翻訳をめぐる」より、2つの講演録と1つのシンポジウム記録を追加した。

2014 年 4 月 30 日